

第 10 回

名取川・阿武隈川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会

議事要旨

日程：令和 3 年 7 月 7 日（水）

13：30～15：30

会場：TV 会議

(1) 規約改正について

- ・「名取川・阿武隈川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会規約」の改定について構成員から賛同いただいた。

(2) 災害対策基本法等の一部を改正する法律について

- ・ 事務局より資料 2 の説明

(3) 地方自治体の災害対応力の向上に向けた水害対応ヒヤリ・ハット事例集の活用法

- ・ 水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）
大原主任研究員が資料 3 の説明

○岩沼市

- ・ 当市では、SNS を活用した災害時の情報収集の提案があり、検討している。現在、行政からの一方的な情報発信をしている。逆に受けた情報は信憑性や不確実性の問題もあり、使いづらいという思いがある。他の自治体で SNS を上手く使い、市民からの災害情報を活用している例があれば、ご教示願う。

○ICHARM

- ・ 緊迫している状況下ではないが、SNS を使って避難所における支援物資の過不足などを情報収集している事例はあった。
- ・ 一方、緊迫している状況では SNS でも間違い・勘違いや、あえて間違った情報を流しているケースもあるので、なかなか確認しづらい情報でもある。
- ・ そのため、一般人ではなく、地域の防災リーダーなど事前にトレーニングを積んでいる方とやり取りすることが望ましい。地域の防災リーダー養成とともに、モニター制度を

重ねあわせた仕組みを運営している自治体は多くある。

○名取市

- ・ 三密回避の問題が出てきた関係もあり、避難所の満員回避のために指定緊急避難場所を確保するための課題がある。施設指定の基本は法律で定められている「安全区域」だが、安全区域以外の場所で避難所を指定しようとする場合には、管理条件や行動条件等を満たした上で、首長が判断し指定できるとされている。
- ・ たとえば、河川の近傍にある施設を避難場所として指定している事例等があればご教示頂きたい。

○ICHARM

- ・ 堤防近傍の施設というのはあまりお勧めできない。
- ・ したがって、満員で定員が足りない場合には、親類宅や地縁者、ホテルや旅館等を利用しての分散避難を集中的に進めていただくことをお勧めする。
- ・ それでも不足する事態であれば避難タワーという選択肢がある。H27 の関東・東北豪雨で大きな被害を受けた、茨城県境町では全国初の水害避難タワーを整備しているので参考としていただきたい。ここでは電源設備も備えています。
- ・ まずは分散避難から優先的に検討されることをお勧めする。

(4) みやぎ地域防災のアイデア集

- ・ 宮城県復興・危機管理部防災推進課地域防災班横田主査が資料3の説明

(5) その他

○ICHARM

- ・ 緊急速報メールはその地域にいないと受信されないというシステムの特徴がある。
- ・ そこで、高齢者の避難課題に対し、あらたに国土交通省提唱で始まった「逃げなきゃコール」を紹介する。あらかじめ地域を登録しておくことで、例えば遠くに離れて住むおばあちゃんの地域のエリアメールが、地域外の家族にも届くことが可能になるサービス。
- ・ 避難時の高齢者の心を動かすためには、息子、娘、孫や知り合いからの電話など、家族や親戚のご支援の力が非常に大きいもの。
- ・ 遠隔地からのエリアメールを受け、対象地域に迫り来る災害の危機を高齢者の方へ連絡してもらい、避難を促すというもの。
- ・ 是非、協議会の皆様を通じて PR いただき、住民の方にご活用いただければと思う。

以上